

時代を切り拓いた62人の原点

歴代受賞作家

北井一夫
平良孝七
藤原新也
石内都
岩合光昭
倉田精二
江成常夫
渡辺兼人
北島敬三
田原桂一
三好和義
和田久士
中村征夫
宮本隆司
武田花
星野道夫
今道子
柴田敏雄
大西みつぐ
小林のりお
豊原康久
今森光彦
瀬戸正人

畠山直哉
都築響一
ホンマタカシ
鈴木理策
長島有里枝
蜷川実花
HIROMIX
川内倫子
松江泰治
オノデラユキ
佐内正史
澤田知子
中野正貴
鷹野隆大
本城直季
梅佳代
岡田敦
志賀理江子
浅田政志
高木こずえ
下蘭詠子

木村伊兵衛写真賞

第50回記念写真展

田附勝
菊地智子
百々新
森栄喜
石川竜一
川島小鳥
新井卓
原美樹子
小松浩子
藤岡亜弥
岩根愛
片山真理
横田大輔
吉田志穂
新田樹
金仁淑
長沢慎一郎
濱本奏

2026年10月31日[土]—11月23日[月・祝]

東京都写真美術館地下1階展示室

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

その眼差しが
新たな世界を写し出す

開館時間：10:00—18:00（木・金曜日は20:00まで）＊入館は閉館の30分前まで

観覧料：一般1,200円(960円)、学生・65歳以上1,000円(800円)、高校生800円(640円)

＊()は有料入場者20名以上の団体料金。中学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)、TOPMUSEUM PASSPORT 2026 提示者は割引。

＊11月5日[木]—20日[金]の木・金曜17時—20時は夜間特別開館による割引料金(学生・高校生無料、一般・65歳以上は団体料金。学生証・年齢が確認できるものをご提示ください。)

休館日：毎週月曜日(ただし11月23日[月]は開館)

主催：朝日新聞出版、朝日新聞社 特別協力：東京都写真美術館 協力：川崎市市民ミュージアム

協賛：株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン、富士フイルム株式会社、ソニーマーケティング株式会社、

キヤノンマーケティングジャパン株式会社、ライカカメラジャパン株式会社、株式会社シグマ、

OMデジタルソリューションズ株式会社、株式会社フレームマン、東京工芸大学

後援：公益社団法人日本写真家協会、全日本写真連盟

問い合わせ：木村伊兵衛写真賞事務局(kimura-award@asahi.com)

TOPMUSEUM

木村伊兵衛写真賞 第50回記念写真展

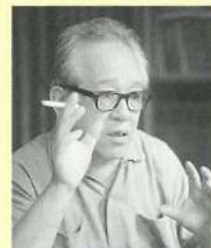
Kimura Ihei Photography Award 50th Anniversary Photo Exhibition

原点から未来を見据えて

2026年の発表をもって「木村伊兵衛写真賞」は第50回を迎えました。この節目に、「木村伊兵衛写真賞第50回記念写真展」を開催します。本展はその歴史を記すだけではありません。62人の受賞作家はつねに進行形で創作を続けてきました。展示される受賞作などは若き日のデビュー作ではなく、それぞれが揺籃期をこえ、写真表現の広野に新たな息吹を吹き込んだ記念碑的な作品群といえます。作家たちは、「写真」というきわめて多様な対象に向かう懐の深い表現術を駆使してきました。ドキュメンタリー、スナップショット、ポートレート、ネイチャー、私写真、ジェンダー、コンテンポラリーアート、そして「写真」を拡張する表現へ。本展は、あらゆる領域で融通無碍な活動を続けている写真家たちの原点に出逢うことで、写真表現の未来をあらためて見据えようという試みです。

木村伊兵衛写真賞とは

戦前、戦後を通じ日本の写真界に大きな貢献をはたした写真家、木村伊兵衛(1901~1974年)の業績を記念して制定された写真賞です。授賞対象は毎年1月から12月までの間、写真の制作・発表活動で優れた成果をあげた新人。活動は写真集、展示、雑誌など広く一般に発表されたもので、写真表現のあらゆる分野を含みます。正賞は賞状と賞牌、副賞に100万円が贈られます。1975年に朝日新聞社によって創設、「アサヒカメラ」が運営事務局を担い、2008年、朝日新聞出版発足後に同社と朝日新聞社との共催になりました。2020年の「アサヒカメラ」休刊に伴い、現在は、朝日新聞出版マーケティング部に運営事務局が置かれています。



木村伊兵衛 写真=朝日新聞社

歴代の受賞者と受賞作品

第1回(1975年度)
北井一夫「村へ」

第2回(1976年度)
平良孝七「バイスカジ」

第3回(1977年度)
藤原新也「逍遙遊記」「西藏放浪」「七彩夢幻」

第4回(1978年度)
石内都「APARTMENT」「アパート」

第5回(1979年度)
岩合光昭「海からの手紙」
倉田精二「ストリート・フォトランダム・東京75~79」

第6回(1980年度)
江成常夫「花嫁のアメリカ」

第7回(1981年度)
渡辺兼人「既視の街」

第8回(1982年度)
北島敬三「New York」

第9回(1983年度)
該当者なし

第10回(1984年度)
田原桂一「TAHARA KEIICHI 1973~1983」

第11回(1985年度)
三好和義「RAKUEN」「惑星」

第12回(1986年度)
和田久士「アメリカン・ハウス—その風土と伝統」

第13回(1987年度)
中村征夫「全・東京湾」「海中顔面博覧会」

第14回(1988年度)
宮本隆司「建築の黙示録」「九龍城砦」

第15回(1989年度)
武田花「眠そうな町」「続・眠そうな町」
星野道夫「Alaska 風のような物語」
「Alaska 北緯63度」

今回、一部の受賞作家の作品の展示はございません。また、受賞作品とは異なる作品を展示する場合もございます。諸般の事情により、事業を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

第16回(1990年度)
今道子「EAT Recent Works」

第17回(1991年度)
柴田敏雄「日本典型」

第18回(1992年度)
大西みつぐ「遠い夏」「周縁の町から」
小林のりお「FIRST LIGHT」

第19回(1993年度)
豊原康久「Street」

第20回(1994年度)
今森光彦「世界昆虫記」「里山物語」

第21回(1995年度)
瀬戸正人「Silent Mode」
「Living Room, Tokyo 1989-1994」

第22回(1996年度)
畠山直哉「LIME WORKS」「都市のマケット」

第23回(1997年度)
都築晋一「ROADSIDE JAPAN 珍日本紀行」

第24回(1998年度)
ホシマタカシ「TOKYO SUBURBIA 東京郊外」
「東京郊外」

第25回(1999年度)
鈴木理策「PILES OF TIME」

第26回(2000年度)
長島有里枝「PASTIME PARADISE」
蜷川実花「Pink Rose Suite」「Sugar and Spice」
HIROMIX「Hiromix works」

第27回(2001年度)
川内倫子「うたたね」「花火」
松江泰治「Hysteric 松江泰治」

第28回(2002年度)
オノアユキ「cameraChimera カメラキメラ」
佐内正史「MAP」

第29回(2003年度)
澤田知子「Costume」

第30回(2004年度)
中野正貴「東京意景」

第31回(2005年度)
鷹野隆大「IN MY ROOM」

第32回(2006年度)
本城直季「small planet」
梅佳代「うめめ」

第33回(2007年度)
岡田敦「I am」
志賀理江子「Lilly」「CANARY」

第34回(2008年度)
浅田政志「浅田家」

第35回(2009年度)
高木こずえ「MID」「GROUND」

第36回(2010年度)
下園謙子「きずな」

第37回(2011年度)
田附勝「東北」

第38回(2012年度)
菊地智子「I and I」
百々新「対岸」

第39回(2013年度)
森栄喜「intimacy」

第40回(2014年度)
石川竜一「絶景のボリフォニー」
「okinawan portraits 2010-2012」

第41回(2015年度)
川島小鳥「明星」

第42回(2016年度)
新井卓「MONUMENTS」

第43回(2017年度)
小松浩子「人格の自律処理」「The Wall, from 生体衛生保全, 2015」
藤岡亜弥「川はゆく」「アヤ子、形而上学的研究」

第44回(2018年度)
岩根愛「KIPUKA」「FUKUSHIMA ONDO」

第45回(2019年度)
片山真理「GIFT」「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ 国際美術展「May You Live in Interesting Times」」
横田大輔「Sediment」
「The Second Stage at GG #50」
横田大輔展「Room. Pt.1」

第46回(2020+2021年度)
吉田志穂「測量」山」「測量」山」/「砂の下の鯨」
「余白の計画」「あざみ野フォト・アニエール」とどまってみるもの」「日本の新進作家 vol.18」
記憶は地に沁み、風を越え」

第47回(2022年度)
新田樹「Sakhalin」「続サハリン」

第48回(2023年度)
金仁淑「Eye to Eye」
「Between Breads and Noodles」

第49回(2024年度)
長沢慎一郎「Mary Had a Little Lamb」

第50回(2025年度)
濱本奏「---(チョー タンタン)」

関連イベント トークショー

「木村伊兵衛写真賞受賞で変わったこと、変わらなかったこと」

(登壇予定者)
小原真史、志賀理江子、新田樹、畠山直哉

日時:11月19日[木] 18:30~20:00

会場:東京都写真美術館1階ホール

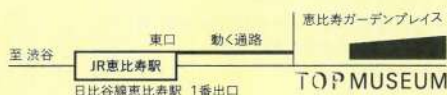
定員:先着190名(整理番号順入場/自由席)

詳細は朝日新聞出版の木村伊兵衛写真賞のホームページをご参照ください。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 TEL 03-3280-0099 www.topmuseum.jp



※本展は諸般の事情で変更することがございます。

※展覧会関連イベントなど、本展の最新情報は、東京都写真美術館、または朝日新聞出版のホームページ等でご確認ください。



JR 恵比寿駅より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。

当館には駐車場はございません。

お車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。